『現代女性とキャリア』第 18 号によせて

現代女性キャリア研究所所長
永井　暁子

現代女性キャリア研究所では、女性のキャリアについて、働き方だけでなく、生き方、人生といったより広い視点に立って研究を行ってきました。昨年のシンポジウムでは、生活基盤として「働くこと」を捉えなおし、本学の研究者、中尾友紀教授、周 燕飛教授、中山真緒専任講師 3 名による報告から、女性が働くことの意味、女性が働くことにより貧困に陥ることを避けられるかについて議論いたしました。それぞれの報告、議論について掲載していますのでご覧ください。

女性が貧困のリスクから逃れるためには働くことが不可避であること、しかし女性が働くことについて、社会保障制度、労働市場、慣習、それぞれの内面を含め様々な障壁があることについて、フェミニズムは問題提起をしてきました。また、女性が働くことを前提とし、一方、自分のケアの重要性も指摘含め、他者のケアを担わない人を視野に入れたワーク・ライフ・バランスという発想は、様々な領域の合意点、悪く言えば、様々な思惑の妥協点でもあったために、残念ながらネガティブなイメージをもたれた感がありました。

今号では、日本を代表するフェミニズム論、ジェンダー論の第一人者である江原由美子氏が、昨今、議論されているネオリベラル・フェミニズムとワーク・ライフ・バランスについて日本の文脈を捉えた論文を寄稿してくださいました。家事労働を研究する私にとっては、西欧（北欧は除く）・米国などと異なり、家事労働者が少ない日本はケア労働の配分が異なるという点からも、それらの地域と同じ枠組みでよいのかと憂慮していましたが、江原氏の論文により論理的な整理がなされ大変勉強になりました。

他には投稿論文が 2 本、研究報告論文、研究紹介、書評、図書紹介、女性とキャリアの雑学、動向と盛りだくさんの号となっております。研究報告論文では、当研究所での研究成果の一部を研究所のメンバーより紹介しております。女性とキャリアの雑学では、国際連合人口基金東京事務所長等を経て、現在、プラン・インターナショナル・ジャパン理事長をなさっている池上清子氏に世界的な女性の活躍についてご執筆いただきました。

本学の新たな動向として、本年 4 月に卒業生を含め長期的な視点にたった JWU キャリアライフセンター開設について、坂本清恵センター長より解説しておりますので、日本女子大学の新たな取り組みについても、是非、お読みください。